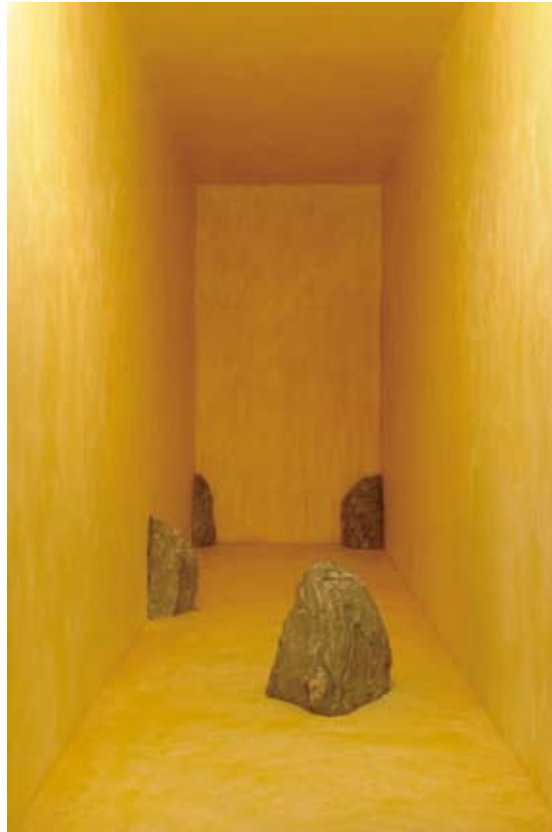


長澤英俊展

オーロラの向かう所

NAGASAWA — Dove tende aurora



《ゼロ時間》1992年 石、蜜蝋
撮影：松本和幸

長澤英俊はイタリアを拠点に活躍する世界的な彫刻家です。1940年に旧満州（現中国東北部）で生まれた長澤は、母の故郷の埼玉県川島町で育ち、県立川越高校、多摩美術大学に学びました。在学中から旅を繰り返していた長澤は、その後、1966年に日本を発って東南アジア、中近東を自転車で横断。1年後に到着したミラノにそのまま住みつき、同時代のイタリアの芸術家と交流しながら本格的な活動を始めます。

長澤は最初期にはオブジェによるコンセプト重視の作品を制作していましたが、1970年代に入ると大理石やブロンズといった素材を用いて彫刻的な表現へと向かいます。彫刻の原点を問い直すような制作を通して、次第に長澤の独創的な手法が生み出され、豊かなイメージと壮大な構想を感じさせる作品へと結実していきます。それらの作品はヨーロッパで高く評価されるようになり、ヴェネツィア・ビエンナーレやドクメンタなどの主要な国際展でもたびたび紹介されてきました。また、近年では重力や力学の原理を応用しながら、独特な構造で成り立つ作品も手掛けています。

長澤の作品では、形とイメージ、時間と空間、眼に見えるものと見えないものの関係が独自の視点から深く考察され、それらがある時は詩的に、ある時は明快にあらわされています。その鋭敏な洞察力と豊かな感受性によって生まれる芸術は、深遠で根源的な世界、作者の語る「アイデア」の世界を私たちに鮮やかにもたらしてくれるに違いありません。

この展覧会は、1993年に開催されて以来の日本国内における待望の回顧展となります。会場の展示空間を生かして作家自身が練ったプランをもとに、1970年代以降の代表作を振り返りながら、近年の大作を中心とした約19点を紹介します。長澤英俊の芸術の魅力を堪能し、その神髄に触れることのできる、またとない機会となるでしょう。

会 期：2010年1月9日（土）～3月22日（月）
会 場：神奈川県立近代美術館 葉山
〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色 2208 - 1
tel: 046-875-2800

休 館 日：月曜日（ただし1月11日、3月22日は開館）、
1月12日（火）、2月12日（金）

開館時間：午前9時30分～午後5時
[入場は午後4時30分まで]

観 覧 料：一般 900 (800) 円 20歳未満と学生 750 (650) 円
65歳以上 450円 高校生 100円
※() 内は20名以上の団体料金
※中学生以下、障害者の方は無料です。

主 催：神奈川県立近代美術館／長澤英俊展実行委員会
企画協力：空間造形コンサルタント

■関連企画

- ・長澤英俊氏によるアーティストトーク：
2010年1月10日（日）
 - ・担当学芸員によるギャラリー・トーク：
2010年1月24日（日）、2月21日（日）、3月14日（日）
- 各回午後2時より 申込不要、参加無料
(ただし長澤英俊展の観覧券が必要です。)

- ・ファミリー・コミュニケーションの日
毎月第1日曜日（今回は2月7日と3月7日）は、
18歳未満または高校生以下のお子様連れのご家族は、
展覧会を全員無料でご観覧いただけます。

長澤英俊（ながさわ ひでとし）：

1940年、旧満州に生まれる。多摩美術大学卒業。在学中から旅を繰り返していたが、1966年に日本から東南アジア、中近東を1年かけて自転車で横断し、到着地であるミラノにそのまま住み着くと、同時代のイタリアの芸術家たちと交流しながら本格的な活動を開始する。1970年代には彫刻の原点を問い直すような制作に向かい、その独創的な手法と壮大な構想による作品は、ヨーロッパでも高く評価され、ヴェネツィア・ビエンナーレやドクメンタなどの国際展でも度々紹介される。



《緑の影》 2000年 鉄、真鍮、セラミック、水
撮影：松本和幸



《詩人の家》 1999年 鉄、鋼鉄、真鍮、紙
撮影：松本和幸



《空の井戸》 2003年 木、鉛、鉄、鋼鉄製ワイヤー
撮影：松本和幸



《舟》 1980-81年 大理石、土、樹木



《夢うつつのセリヌンテ》 2009年 大理石
撮影：松本和幸